

じどうかん通信

第128号

令和6年2月発行

愛知県児童館連絡協議会

「元気スイッチ on!!あつまれ!

あいちのじどうかん」に参加して

刈谷市夢と学びの科学体験館 七條 俊一郎

11月19日(日)小牧市ラピオ(多世代交流プラザ)にて開催された「元気スイッチ on!!あつまれ!あいちのじどうかん」に夢と学びの科学体験館職員3名で参加しました。

各市町村の児童館や児童クラブでイチオシの工作やゲームなどの遊びには、特色を出すため細かな工夫がされており、遊びの情報交換の場として非常に参考になりました。

当館では、オリジナル工作である「伸びる剣」を来館された方と一緒に作りました。「伸びる剣」は、はさみなどの危険な道具は使用せず、使用する材料も少ないため、数分程度で作ることができ遊び方も簡単なので未就学児の子どもたちにも大人気の遊びです。

あそびばでは、大人の力を借りずに手順書を見ながら1人で試行錯誤する子どもたちや完成した伸びる剣で楽しそうに遊ぶ子どもたちの姿が非常に印象的でした。また、一般の大人の方に交じって児童館や児童クラブの職員が工作を体験し、この遊びは取り入れることは可能か、他に応用はできないかなどそれぞれ職員の立場で体験されている方が多く見受けられました。子どもの居場所づくりのために積極的に体験し、今回参加していない職員に共有しようとする姿勢や来館する子どもたちの喜ぶ姿を想像しながら作成している姿に非常に感銘を受けました。初めて「元気スイッチ on!!あつまれ!あいちのじどうかん」に参加してみて、各市町村の職員が柔軟な発想で身近な素材を活かしたあそびを提供しており、勉強になりました。今後は、各市町村の工作やゲームを参考に乳幼児から高校生世代までの多様な年齢層に適したあそびを提供し、子どもの居場所としての本来の役割を果たすことを念頭に日々の児童館運営に取り組んでいきたいと考えております。



令和5年度 第2回児童厚生員研修会に参加して

小牧市 こまきこども未来館 山田 良子



令和5年10月6日（金、西尾市総合福祉センターにて開催された第2回児童館厚生員研修に参加し、相山女学園大学 人間関係学部 田村禎章教授から地域福祉活動について学びました。児童館・放課後児童クラブの活動は、地域を舞台にした活動でなければならない。地域福祉の推進に関与し、その拠点となることを求められている。「まちづくりは人

である」地域住民と積極的に関わり、「受容・共感・傾聴」を大切にしながら、共に考えて、協働して福祉社会(住みやすい地域)づくりを目指すことが望まれるとのことでした。

グループワークでは、自身の児童館で行っている地域福祉について意見交換を行ったのち、地域福祉活動が盛んな玉城町について講義を受け、再び地域福祉を促進するためにはどんなことをするべきかをグループごとに話し合いました。

課題を抱えている児童館も多くあると実感するとともに、他館の活動を知る良い機会となりました。また、それぞれの館の特色を踏まえて、どのような地域福祉活動が可能であるかをグループメンバーと一緒に考えることができました。児童館や放課後児童クラブが、地域との繋がりを持つことで高齢者、障がい者、児童が繋がり、福祉が広がり、複合的なサービスへと繋げていくことができれば素敵だなと感じました。

午後からの「資質向上のための研修」では、「自分の児童館の強み、弱み」についてグループワークを行いました。各館によって様々な特長があり、強みとしては「人間関係が良好である」「環境が整っている」「企画が充実している」などが挙げられました。また、弱みとしては、「人出不足である」「発信力不足である」「地域住民や学校との繋がりが薄い」などが多く挙げられました。その後、これらを踏まえ、グループごとに弱みの部分を改善し、どのような方法で地域福祉を進めていけば良いかを話し合い、発表を行いました。

今回の研修を通じて、『まちづくりは人づくり～行方人が生き生き楽しいことが大切～』であることを学びました。このことを意識しながら日々の業務に励みたいと思いました。その拠点のひとつに、こまきこども未来館がなっているように努めていきたいです。



第2回三河ブロック研修会に参加して

田原市役所 子育て支援課 大場 幸司

令和5年11月17日(金)、刈谷市役所7階大会議室で開催された第2回三河ブロック研修会に事務局(三河ブロック役員)として参加しました。午前中は、「きのいい羊達・にじいろキッズ」代表の相川優一氏による表現活動『ゲーム・運動遊び』の講義や実践、ゲームで使う「おもちゃ」の作り方等の説明を受け、午後からは、三河ブロック役員の進行により情報交換『子ども参画のため、児童館にできること』と題して、グループワーク形式で研修が行われました。

午前中の『ゲーム・運動遊び』の講義では、「明日試したくなる遊び」をテーマに、「簡単に出来る運動遊び」「未就園児親子遊び」「手づくりおもちゃ紹介」の実践や解説が行われました。運動遊びの実践では、カラーボールやフラフープなどの身近な道具を使って、チームで協力しながらゲームをしました。参加者は、時には騒がしく、時には真剣に、子どものようにゲームを楽しんでいました。

午後からは、各グループで自己紹介を兼ねた「うそ・ほんとゲーム」が行われ、本人以外のグループ員でうそを見抜きながら自己紹介が行われました。続いて、グループワークが行われ、「小学生が楽しんでいる遊び」「わが児童館のいい所、自慢できる所」「まだまだな所、こうなって欲しい所」「今の児童館で現実的にできること」の順に、自分の考えたことを付箋に記入し、B紙に貼り付けていきました。最後に付箋に書かれたことを『子ども参画のため、児童館にできること』として別のB紙にまとめ、各グループの発表が行われました。

発表を聞くことで、自分の所属する児童館でできること、今後どのような児童館にしていきたいか、他の児童館ではどんな遊びをやっているかなどが情報共有され大変有意義な研修でした。



「第18回全国児童館・児童クラブ大会」に参加して

岩倉市第一児童館 大川真由美

令和5年11月25日(土)全国大会が北は北海道、南は沖縄まで全国8か所で開催されました。全国児童厚生員研究協議会の有志が企画運営委員となり「こどもの居場所」「こどもの声」を軸にした各地8つの分科会がありました。どのテーマも魅力的でしたが、今回は日本シリーズで盛り上がる関西、神戸へ参加させていただきました。2023年2月にオープンしたばかりの大型児童センターこべっこランドを会場に基調講演「遊びで子どもの意見を聴くために」をシンポジウム形式でリモート開催した後、「+あそび(あそびたしさん)」をテーマに分科会が行われました。例えば遊んだ後の片づけをしないなどの児童館が抱えている課題に遊び要素を加え、課題を遊びに変える「隠し味」を考えるというものでした。各地から集まった児童厚生員の豊かな発想に感心させられると共に凝り固まった自分の頭のがっかりもしました。面白くない状況を楽しむ力、面白がる力が遊ぶ力となること、勉強も仕事も「遊び」になった瞬間が面白い、そして一番大切なことは職員も一緒に楽しむことだというまとめの言葉に大きく共感しながら1日目は終了しました。



翌日26日(日)は、抜けるような青空のもと六甲道児童館主催の「どんぐりマーケット」に参加しました。この企画は「ふゆじたくのおみせ」という絵本からヒントを得た六甲道児童館の館長が直接、作者と交渉し実現したものだとお聞きしました。ルールは簡単。作ったものを売る、商品を買うには一粒1グリのどんぐりが必要でクヌギなどのような大きなものは3グリで数えられる。商品には「〇〇グリ」と値段がつけられており、値段交渉もOK。一つのお店の大きさはバンダナ1枚。子どもだけでも大人と一緒にでも、事前申し込みも必要ないので当日の参加でも十分楽しめる。中には「買う」だけでなくあらかじめ持参した商品を「売る」という楽しみ方をした児童厚生員もいました。売られている商品も時節柄クリスマスのもが多く、欲しいリースがありましたが「グリ」が足りなくて買うことができず残念がっている私にかけられた言葉が『どこかで拾ってきて』お天気同様ほんわか暖かな気持ちになりました。



1冊の絵本から飛び出した企画。思うだけなら誰でもできますが、やるかやらないか、とにかく行動しなければ何もしえない、という生きた実践報告でした。

次回は令和7年2月15日(土)～16日(日)愛媛県松山市で開催されます。



移動児童館「モノでかおアニメ」

豊山町北館さざんか児童館

北館さざんか児童館は、社会福祉法人檸檬会が運営する公設民営の児童館です。

今年度より、「保育×ICT」の取り組みで法人より、子ども用の iPad が1台支給されました。導入にあたり、職員でガイドラインを学ぶ研修を受講しました。『子どもたちが ICT を使えるようになることを目的としているのではなく、ICT を活用することで子どもの活動がより深まり、探究的な姿を育むことを目的としていること』を学び、子どもたちと一緒に使い方のルールを話し合いで決め、日々の活動の中で活用をスタートさせました。

興味津々の子どもたちは「My 図鑑」というアプリを使い、出来た LaQ の作品を子どもたち自ら写真を撮りオリジナルの図鑑を作ったり、館で行ったなつまつりの BGM を「GarageBand」というアプリで作曲してつくったり、サナギが蝶々になる瞬間を定点カメラで撮影したりとあっという間に活動の幅が大きく広がりました。

そんな中、移動児童館「ゆめたま号」がさざんか児童館にやってくることになり、数あるプログラムの中から迷わず選んだのが、「モノでかおアニメ」です。当日は、小学1～3年生が楽しみました。

「iMotion」というアプリを使ってアニメーションづくりにチャレンジしました。静止画を組み合わせて動画にすると素敵なアニメーションの完成です。

このアプリは、英語表記でしたが子どもたちはすぐに使い方を覚え、その吸収力の速さに驚くばかりでした。その後の遊びもさらに発展し、クリスマス会に上映するお話をアニメーションで作ろうという案も出て準備を進めています。



現場での ICT の活用は、戸惑いもありますが、「どうしたらいいのかわからないから」「苦手だから」という大人の理由で子どもたちの活動に制限がかかるような環境を作리たくない。子どもたちのために最善の環境を作りながら、職員自身も学び続けていきたいと思ひます。

児童厚生 1 級指導員を取得して

稲沢市立西町さざんか児童センター 渡辺 宏明

私は名古屋市の児童館で 8 年勤めた後、稲沢市の児童センターに移り、現在 6 年目になる。

児童館職員を始めた頃は、子どもを指導していくことばかりを考えていた。しかし、児童厚生 2 級指導員が取得できる基礎研修で児童館・児童厚生員について学び、子どもと関わるうちに考えが変わっていった。私達は指導ではなく子どもの「やってみたい」気持ちを大切に、伴走者として共に歩いていくことが大切なのだと。そう感じ児童厚生員として経験を積み重ねるうちに、児童厚生 1 級指導員取得の為の中堅研修を受講出来る勤務年数を迎えた。

新たな学びの為に受講したこの研修では、自分から積極的に働きかけ、行政や地域団体・学校など様々な人や物と児童館を結びつけていくワーキングネットの発想と、それらを結びつけていくためエビデンスを示して言語化する力の必要性。中堅職員は現場で子どもと関わるだけでなく別の視点も必要であることを学んだ。今までは、目の前の子どもと関わる事が自分の仕事だと考えていた。伝えることや書くことは苦手意識が強く、ましてや人前に出ることなど論外だったが、そういった部分も自分の仕事としてすべきことと気づかせてくれた研修だった。意識し始めると、不思議なことに、所属児童館の育児講座で話をする機会をもらったり、おたよりにコラムを載せてもらったりと自ら発信する機会がでてきた。最近では近隣大学の学生へ児童館の活動について話したり、研修講師の機会もいただいたりした。実際に自分の経験、学んだことを発信していくことで理解し共感してくれる人が現れ、新しい取り組みにも繋がっている。動かず発信しなければ何も伝わらないし理解してもらえない。まずは「やってみる」。その挑戦ができるのも児童館の魅力の一つだと思っている。また、中堅研修では全国の児童館に関わる仲間との出会いがあった。研修を通して参加者それぞれの想いや館活動に刺激を受け、明日からのエネルギーをもらえた。いろいろなことで悩んでいるのは自分だけでなく、他の仲間たちも頑張っていると思えるようになった。

児童館ガイドラインに記載されていることは理想ではなく、全てどこかの児童館で実施されていることだ。現在所属している児童センターでも、施設長を中心に中高校生専用の時間、近隣公園での移動児童館や学校への出前児童館など様々な団体や施設と連携して新たな取り組みを行い始めている。しかし、児童館ガイドラインや全国の児童館と見比べるとまだまだやれることはたくさんある。私達児童厚生員は「子どもの生を厚くする人」と言われる。子どもの生を厚くするためには、まず自分自身の厚みも出すことが必要だ。自分の厚みを増していくため、今後も学び続け、学んだことを実践し児童館の活動を広げていきたい。それが、子どもの生を厚くすることにつながっていくと思っている。

多世代でふれ合える、安らげるあそび場

せとっ子ファミリー交流館

せとっ子ファミリー交流館は、瀬戸市の玄関口である尾張瀬戸駅から徒歩で来ることができる、児童館と子育て支援センターの機能を有する総合的な施設です。

小学生向けの「児童室」では製作あそびやボードゲームを思う存分に楽しめるようにしています。また乳幼児向けの部屋は3部屋あり、お子さんの発達に合わせて安心して遊べるように環境を工夫しています。小中高生を始め、多くの乳幼児とその保護者の来館があり、卓球、料理、木工を始め、保護者向けの講座、パパ向けの教室等も企画することで、自然と多世代の交流が生まれています。

「また来たい！」と地域の方々に愛される児童館を目指し、職員一同頑張っています。



乳幼児の部屋



木工教室



パパ向け講座



卓球あそび



ボードゲーム



地元商店街との
イベント

じどうかん通信に載せてほしい記事を募集しました♪

うちの児童館の“ココ”がすごい！！

うちの名物職員！

飛島村の、地域・学校との連携を
多くの方に知ってもらいたい！

私のオススメ図書ランキング

扶桑町の新しい施設「ひまわり」に
ついてもっと詳しく知りたいです♪

投稿ありがとうございました。

この意見を、来年度のじどうかん通信に活かしていきます。



令和5年度「じどうかん通信」の発刊を終えて

じどうかん通信の発刊に携
わることで、愛知の児童館に
ついて多くのことを学ぶこ
とができました。

機関紙委員会の皆さん1年
間ありがとうございました。
加藤ち

ご協力いただいたみなさん
読んでいただいたみなさん
機関紙委員会のみなさん

すべての方に感謝申し上げま
す。ありがとうございました。

大川

多くの人に興味をもってもら
うにはどうすれば良いかと、
新たなことにチャレンジした
一年でした。

仲間と一緒に作り上げる楽し
さが味わえて、とても勉強に
なりました。

橋本

今年は新しい取り組みで QR
コードからの意見を集めての
機関紙づくりでした。毎回み
なさんの意見を見るのが楽し
みでした。もっとアピールし
たかった(笑)

来年からは読者となり楽しま
せてもらいます。

若原

いろいろな市町村からいた
だいた原稿を見て視野が広
がりました。私も「愛知の児
童館」の一員だと実感した一
年間でした。ありがとうございました。

浅沼

機関紙担当になり様々な児童
館について知ることができ、と
ても勉強になりました。
また、担当のみなさんと一緒
にできたこと、とっても楽しか
ったです。来年度も素敵な機関紙
を発行できるように頑張りま
しょう。

加藤え